

日本語能力チェックシート（聞く・話す・読む・書く）

注：チェックシートでは、以下のように表記しています。
 生活言語としての日本語→生活日本語 学習言語としての日本語→学習日本語

（聞く）

レベル1	日本語に初めて接する。
	自分からの発話がなく、日本語を聞くことだけ（理解なし）に集中する。
	視覚的なものや声の変化で内容を理解しようとする。
レベル2	あいさつの言葉を聞いて、答えることができる。
	簡単な指示（「書いてください」「見てください」など）を理解し、応じる。
	うなづいていても内容を理解していないこともある。
レベル3	日常的な簡単な質問（「ご飯を食べましたか」など）に、「はい」「いいえ」や首を振って答える。
	日常的な内容でも、少し複雑な表現（複文など）になると理解が難しい。
	学習内容は補助（個別指導、言い換えなど）が必要。
レベル4	助詞などが理解しにくく、正しい内容で理解していない。
	学齢に応じた日常的な内容が理解できる。
	一斉授業での学習内容が、かなり理解できる。
レベル5	まとまった内容の話のポイントがかなり理解できる。
	細かな表現や深い内容の理解は、難しいことがある。
	学齢に応じた生活日本語、学習日本語ともにすべて理解できる。
	多様な表現をされている文でも正確に理解できる。

（話す）

レベル1	初めて日本語を話す。
	日本語よりも、ジェスチャーを使う。
	自分からは話さず、相手の言ったことを繰り返す。
	母語で助けってもらったり、母語で話したりする。
レベル2	あいさつや「はい」「いいえ」など決まった表現ができる。
	健康に関する表現（「トイレに行きたい」「頭が痛い」など）ができる。
	安全に関する表現（「危ない」「助けて」など）ができる。
レベル3	単語をつなげて何とか伝えようとする。
	二語文・三語文・・・と徐々に文が出てくる。
	簡単な質問には短く答えるが、長く話そうとすると、文が切れる。
レベル4	一斉授業の流れの中で話に参加するのは難しいが、補助があれば参加できる。
	日本語の発話は増えるが、文法的には不正確（聞く側が理解できる範囲）。
	会話に入ったり、一斉授業の中でも話に参加できる。
	日常生活では、まとまった内容を話すことができる。
レベル5	学習では、複雑な内容や深い部分を伝えるのが難しい。
	ディスカッションなどにも参加できる（但し話の内容による）。
	学齢に応じた生活日本語、学習日本語ともにすべて話すことができる。
	学齢に応じた日常と学習の内容を正確な日本語を用い、適切なコミュニケーションが行える。

(読む)

レベル1	自分の名前を読むことができる。
	いくつかの単語を読むことができる。
	視覚的情報に頼ることが多い。
レベル2	身近な話題に関するテキストの単語を日本語で認識しはじめる。
	日常生活に関する語句を日本語で認識しはじめる。
レベル3	話し言葉とテキスト内の言葉の差異が理解できない。
	教室の中や身の回りにある言葉を読むことができる。
	短く単純で、繰り返しが多い文章を読むことができる。
	知っている言葉だけを読み、知らない言葉は読みとばして内容を理解しようとする。
レベル4	語彙の説明などの補助があれば、説明文なども読むことができる。
	生活や学校場面に関係する広範囲のテキストを読んで理解できる。
	微妙な意味合いの違いについては、理解できないことがある。
	日本語母語話者よりも、文章を読むのに時間がかかる。
レベル5	文化的知識が必要な場合は、理解が困難なことがある。
	学齢に応じた生活日本語、学習日本語ともにすべて読むことができる。
	年齢で期待される範囲内で、テキストの意味を理解できる。

(書く)

レベル1	ひらがな・カタカナを書いたことがない。
	母語で書くことはできる。
レベル2	自分の名前が日本語で書ける。
	板書などの文字を見ながら、書き写すことができる。
レベル3	耳で聞いた音や文を、文字として書き表すことができない。
	教室の中にある文字を書くことができる。
	例文が与えられれば、短い文を書くことができる。
	話し言葉に見られる誤用をそのまま反映した文を書く。
レベル4	主述の呼応関係、時制、助詞などに誤用が現れる。
	書くことに関して意欲的で、ある程度なめらかに書くことができる。
	語彙、文構造、言葉のニュアンス等に制限がある。
	日本語母語話者よりも、言葉を書くのに時間がかかる。
レベル5	誤用もいくらか残るが、意味伝達の妨げにはならない。
	学齢に応じた生活日本語、学習日本語ともにすべて書くことができる。
	多様な表現を用いて文章を書くことができる。